



ABILITY 2.0 PRO

ABILITY Pro 徹底攻略!

その17 リアルなドラム&豊かなピアノを奏でる新しいソフトウェア音源

ABILITY 2.0 Proには、新しいソフトウェア音源として fxpansion 社の「BFD Eco」と UVI 社の「Grand Piano Model D」が追加されました。作曲の時にドラムやピアノのトラックでこれらの音源を使えば、グッと作品のクオリティを高めることができ、また、良い音で作曲をすると創作意欲も刺激されます。それでは、BFD Eco と Grand Piano Model D の基本的な使い方を紹介しましょう。(文：平沢栄司)

即戦力として使えるドラム&ピアノ専用音源をチェック

「BFD Eco」はドラム音源の歴史を変えた「BFD」の末弟で、BFD の特徴である高品位なサウンドと音作りのやり方が初心者にも扱いやすくとめられています。一方の「Grand Piano Model D」は丁寧なサンプリングでスタインウェイのコンサートグランド「Model D」のサウンドを再現したもので、深みのある低音と豊かな響きが特徴のピアノ音源です。

BFD Eco を使ってドラムのトラックを作ってみよう

BFD Eco はドラムの音作りやミックスについて、きめ細かくセッティングできるのが特徴です。まずはプリセットの中からイメージに近いものを選んで、鳴らすところから始めてみましょう。

他の VST インストゥルメントを使う時と同じように「VST インストゥルメント・ウィンドウ」から呼び出し、演奏用の MIDI トラックを作成して出力先を「BFD Eco」にします。そして、呼び出したばかりの BFD Eco には何も読み込まれていないので、画面右上の「PRESET」のメニューを開いて、任意のプリセットを選びましょう。数が多いので圧倒されますが、とりあえずは「BFD Eco Default Startup」あたりを試してみると良いと思います。

BFD Eco には「KIT」、「CHANNEL」、「GROOVES」の3つの画面があり、画面左上のボタンで切り替えます。サウンドのチェックや演奏する時は「KIT」を選んでおくといいでしょう(画面1)。画面上部に表示されるドラムセットの画像をクリックすると、音を鳴らすことができます。また、下段のミキサー画面では各パーツの音量バランスの調整も可能です。

準備ができたら、MIDI トラックにパターンを打ち込むわけですが、BFD Eco には即戦力となるリズム・パターンのプリセットがあるので、活用しましょう。左上のボタンで画面を「GROOVES」に切り替えると、上段がパターンのブラウザ画面になります(画面2)。中央に並ぶパターン名をクリックすると再生されるので、聴いてみましょう。こちら数も膨大なので、左側の絞り込みの機能を使うと便利です。例えば、オーソドックスなロックドラムなら、左上の Genre は Rock を、その下の Time Signature は 4/4 を、そして、その右の Fill で Groove を選びます。BPM Range は (all) のままか、お好みで選んでください。

絞り込んだパターン名を試聴して気に入ったものが見つかったら、そのパターン名をドラムの MIDI トラックにドラッグ&ドロップすると、貼り付けることができます。この時、先に MIDI トラック内にフレーズ・トラックを作成しておいて、そこにドラッグ&ドロップすれば、貼ったパターンをすぐにループ再生できるので、オススメです。通常パターンの他にフィルインのパターンも用意されているので、つないでいけば1曲相当のパターンを組むこともできます。また、フレーズ・エディタを開けば、貼ったパターンを修正するのも簡単なので、グルーヴィなプリセットでドラムの骨格を作った後、フレーズ・エディタで細かいところを自分の曲に合わせて調整すれば、効率良く作業が進むでしょう。

Grand Piano Model D のピアノ・サウンドを堪能しよう

Grand Piano Model D は UVI Workstation というソフトウェア音源のライブラリになっているので、「VST インストゥルメント・ウィンドウ」から先に「UVI Workstation VST」を呼び出した後、先ほど BFD Eco でドラムキットのプリセットを読み込んだように、UVI Workstation から Grand Piano Model D を呼び出す形になります。

まず、画面上の「目」の形のアイコンをクリックして、ブラウザ画面に切り替えます。そして、左の Soundbanks から「Grand Piano Model D」を選ぶと、中央のリストに7つのプリセット音色が表示されるので、いずれかを選んでダブルクリックすると読み込まれて、演奏できる状態となります。最初は「1-Grand Piano Model D Script」を選ぶといいでしょう。

画面3のようにピアノの表示に切り変わったら、読み込み完了です。一番下の鍵盤をクリックするか、MIDI トラックに打ち込むとサウンドをチェックできます。もし他のプリセットも試してみたい時は音色名をダブルクリックして、選択画面に戻って選び直すか、音色名の横の「<」と「>」をクリックして、前後のプリセットに切り替えます。

先ほど選択したプリセットでは、画面右側のつまみで音量とリバーブの深さを調整したり、その左横にある4つのアイコンで、タッチに対する強弱の反応を変えるペロシティー・カーブを選ぶことが可能です。もっときめ細かな調整が必要なら、左にある「Options」をクリックして開く画面を使いましょう。ここでは、ペロシティーの感度や余韻の調整、3バンドのEQを使った簡単な音質の調整が行えるようになっています。といっても、基本的には調整を加えなくても問題はないでしょう。



画面1 ドラム全体の音量バランスやサウンドチェックを行うのに便利なのが、KIT画面だ。左上のボタンで画面を選び、右上のPRESETのメニューでドラムセットを選択する



画面2 BFD Ecoには、グルーヴ感溢れるプリセットのパターンが豊富に用意されている。GROOVESボタンで画面を切り替えた後、試聴して気に入ったものを見つけたら、MIDIトラックに貼って活用しよう



画面3 再生用のソフト音源「UVI Workstation」に「Grand Piano Model D」の音色を呼び出した状態。MIDIトラックの打ち込みや外部MIDIキーボードで演奏すれば、スタインウェイのピアノの音色を堪能できる